

(統合生命科学研究科 プログラム共同セミナー)

## 細胞膜マイクロドメインを介した スフィンゴ脂質センシング機構の解析

**田淵 光昭 教授**

香川大学農学部 応用生物科学科

細胞膜は、グリセロリン脂質、ステロール、スフィンゴ脂質の3つの脂質を主として構成され、これら脂質の組成は細胞や組織により異なりますが定常状態では厳密な代謝制御によって一定に保たれています。ヒトではその制御の破綻は脂質代謝異常症などの様々な疾患の原因となります。

本セミナーでは、我々が、酵母において見出したスフィンゴ脂質レベルの低下に伴って誘導され、下流のスフィンゴ脂質代謝に関わる遺伝子の発現制御を介してスフィンゴ脂質代謝を制御する転写因子について紹介します。

ステロールについては、ヒト及び酵母でそのセンシング機構が良く理解されていますが、スフィンゴ脂質が細胞内のどのような分子装置によりセンシングされるかについては、ヒトを含めたすべての生物においてほとんど理解されていません。本セミナーでは細胞膜マイクロドメインを介したスフィンゴ脂質のセンシングの機構についても議論できればと思います。

世話人: 北村憲司(統合生命科学研究科・生物工学プログラム)

本セミナーは大学院集中講義の一部として行います。本授業を履修していない学生さんには、研究科プログラム共同セミナーの対象になります。

**開催日時: 令和5年 12月21日(木) 16:30-18:00**

**会場: 広島大学先端科学総合研究棟3階 302S会議室**

お問い合わせ先

- 広島大学大学院統合生命科学研究科HiHA事務局([healthy-aging@hiroshima-u.ac.jp](mailto:healthy-aging@hiroshima-u.ac.jp))
- 北村憲司 ([kkita@hiroshima-u.ac.jp](mailto:kkita@hiroshima-u.ac.jp))